

1

1 悪者
2 流
3 写真

4 道路
5 消去
6 人口

2

1 慣れ
2 ア
3 すまない

4 ウ
5 頭
6 ア
7 イ
8 工

7 I かけがえのない
II 感謝

3

8 本当の友だち

1 ねむりのリズム

2 ① 工
② イ
⑤ ア
3 ア

4 I 浅い
II 脳だ

5 I すい
II (5 I 完答) ズム
II (5 II 完答) ねむ
ない

6 I 1
II 1

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

- 1 「悪」の上の部分は「西」と書かないように気をつけよう。「西」ではなく「亜」である。
- 2 「流」は最後の一画の形に気をつけよう。しっかりと右に曲げて、上にはねる。
- 3 「真」は「十」「目」「一」「八」の部分から成り立っている。横ぼうの数が少ないという間違いが多いので気をつけよう。
- 4 「道」はしんにょうの二画目の形に、「路」はあしへんの形に気をつけよう。
- 5 「消」の右上の部分は中央をまっすぐ立てて書く。「ツ」のように書かないように気をつけよう。
- 6 「人口」は「国など一定の地域に住んでいる人の数」という意味である。意味を考えずに「人工」と書かないように気をつけよう。

2

- 1 問題文に「佐藤さんの様子」とあるので、佐藤さんの言動に注目しながらさがしていこう。何度も来ているので、病院のベッドの動かし方をよくわかっているのである。
- 2 ②の前後のつながりから、健康についてしようだんを言っていると思われる。「健康のためなら死んでもいい」とは、まさか本気では思っていないだろう。父さんは病気でたおれるまで健康の大切さに気づいていなかったのである。
- 3 ただ歩くのを助けてあげるなら直接支えればよいはずだが、そうしないのはなぜか。直接からだを支えてしまえば自分で歩く練習にならず、結局は父さんのためにならないと思っっているとも考えられる。いずれにせよ、佐藤さんは父さんの見えないうところでも父さんを助けてくれているのである。
- 4 佐藤さんが「おふくろさん」と呼んでいるのは、後の父さんとの会話からわかるように「ぼく」の父さんの母親のことである。「ぼく」から見れば「父親の母親」は「祖母（おばあちゃん）」である。
- 5 からだの一部が含まれる慣用語である。「頭が下がる」は、「相手の行動などに感心し、敬意をあらわす」という意味である。「頭が上がらない」という慣用語もあるが、こちらは「相手に負い目があって対等にふるまえない」という意味なので混同しないように気をつけよう。

- 6 ⑥は「最初のころはうれしかった」が、後で「すまない気持ちでいっぱいになった」というつながりなので、次第に変わっていくという意味の「だんだん」があてはまる。⑦は「実際に見てはいないが、そうにちがいない」という内容が後に続くので、「きつと」があてはまる。⑧は足がうまく動かず、他にできることがないということで「たった（ひとつの）」となる。

- 7 線⑨の前後の、父さんと佐藤さんの会話をていねいに読もう。仕事のしすぎで病気になったことで健康や家族といった、当たり前に身のまわりにあったものが「かけがえのない」ものだと思っつき、周りの人たちに支えられて生かされていることに「感謝」しているのである。

- 8 文章全体を通して父さんと佐藤さんの会話が続く場面だが、会話以外の部分は「ぼく」の視点から描かれている。——線③の直後で、父さんが気づかないところで父さんを助ける佐藤さんの様子を見て、「これが、本当の友だちなんだ」と思っていた。

3

- 1 ①の前後を読めば、②には金しばりになる原因になることがはいるとわかるだろう。本文最後の段落で金しばりをふせぐための方法が説明されていて、「すいみんのリズムをみだします」とある。「すいみんのリズム」では八字なので、よく似た七字の表現をさがそう。

- 2 ①は直前でノンレムすいみんについて説明し、直後ではレムすいみんについて説明している。「いっぽう」があてはまる。ここには「また」もはいるので、⑤の答えを先に決めよう。②は段落の頭にあるので、前の段落と後の段落をつないでいる。正常なねむりのリズムについて説明した後に、それが何かのきっかけでくずれて金しばりになる、というつながりになっているので、「ところが」があてはまる。⑤は金しばりのふせぎかたを前後で並べているので、「また」があてはまる。⑤を含む段落のはじめに「まずは」とあることもヒントになる。

- 3 《 》を含む文の後に「そんなときは、脳だけが起きています状態になるため、どんなに脳が命令をしても、からだ動きません」とあり、①の直後の文には「レムすいみんは、からだが生かれています状態です」とあるので、《 》には「レム」があてはまるとわかる。

- 4 IIから考える方がわかりやすいだろう。どういうことが起こると「脳がいくら命令を出してもからだは動かなくなる」のか、と考えながら本文を読み返そう。——線③の直前に「そんなときは、脳だけが起きています状態になるため、どんなに脳が命令をしても、からだは動きません」というよく似た表現が見つかる。Iは、どのようなときにIIのようになるのか、と考える。からだは動かなくなっている状態の「レムすいみん」と呼ぶということが本文の三段落目で説明されていた。

- 5 金しばりのふせぎかたは、本文の最後の段落でまとめられていた。大きく分けて三つの方法が並べられているということに読んだ際に気づいておきたい。

- 6 I 本文四〜六行目にノンレムすいみんのはきは脳が休み、レムすいみんのはきはからだが生かれていますということを書いてあり、本文の六〜七行目に「ノンレムすいみんとレムすいみんを約九〇分ごとくり返していきます」とあるので、脳と体は交代で休んでいると言える。

- II 本文の最後の段落で、金しばりのふせぎかたとして「ねむる前には、脳が興奮しないように、テレビを見たり、ゲームをしたりしないようにするのも効果的です」と書かれている。